

序論

計画策定の趣旨

利府町総合計画は、町の目指すべき将来像や方向性をみんなで共有し、その実現に向けて、協働で「まちづくり」をしていくための指針です。

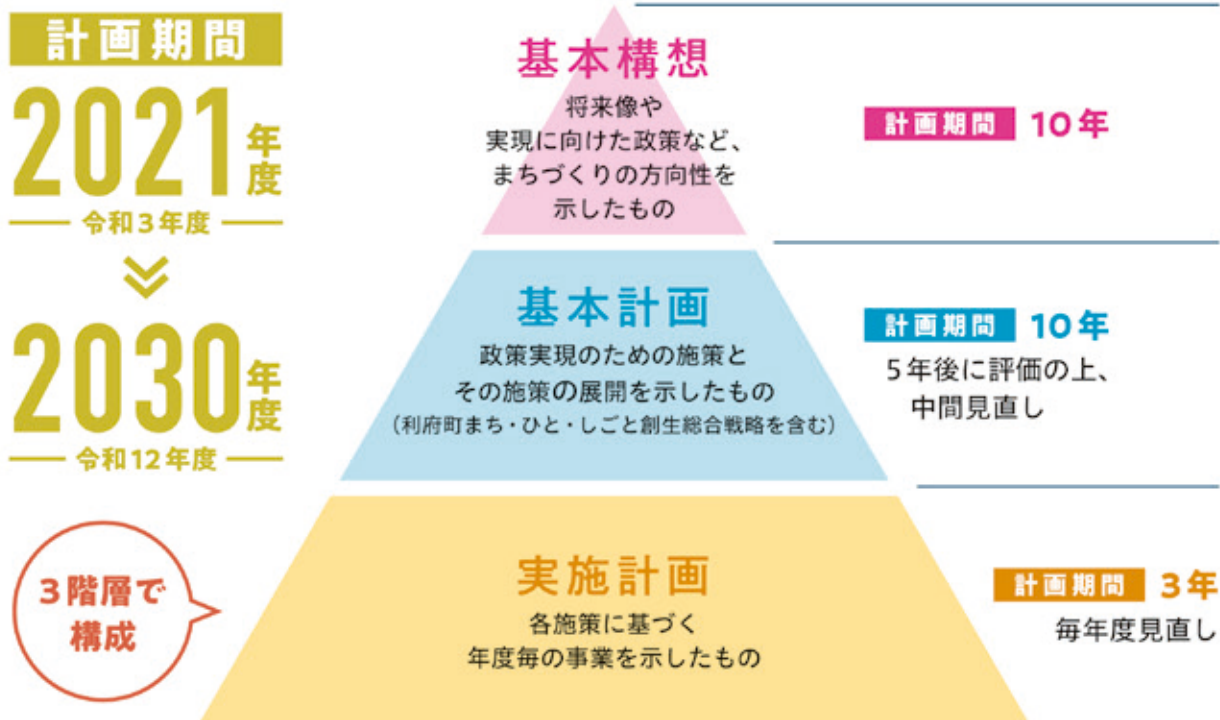
前総合計画では、「ひと・こころ・まち しあわせ共創のステージ」をメインテーマに、新たな住宅地や工業団地、文化複合施設の整備などに加え、先進的な子育て支援や教育環境の整備、町民総参加のまちづくりなど総合的なまちづくりに取り組んできました。

しかし、全国的に人口減少・少子高齢化が激化し、2040年までに全国の自治体の約半数が消滅する可能性があるといわれる「2040年問題」をはじめとして、地域の存続に関わるような、喫緊に取り組まなければならない課題が山積しており、これまでの行政サービスの維持が困難になることが懸念されます。

本町では、そうした厳しい社会情勢を乗り越えるため、優れた立地性や豊富な地域資源を生かし、新たな土地利用や企業誘致等に取り組むことで人口増を図り、町民の皆さまが将来にわたって幸せを実感し続けられる「持続可能なまち」への発展を目指していきます。

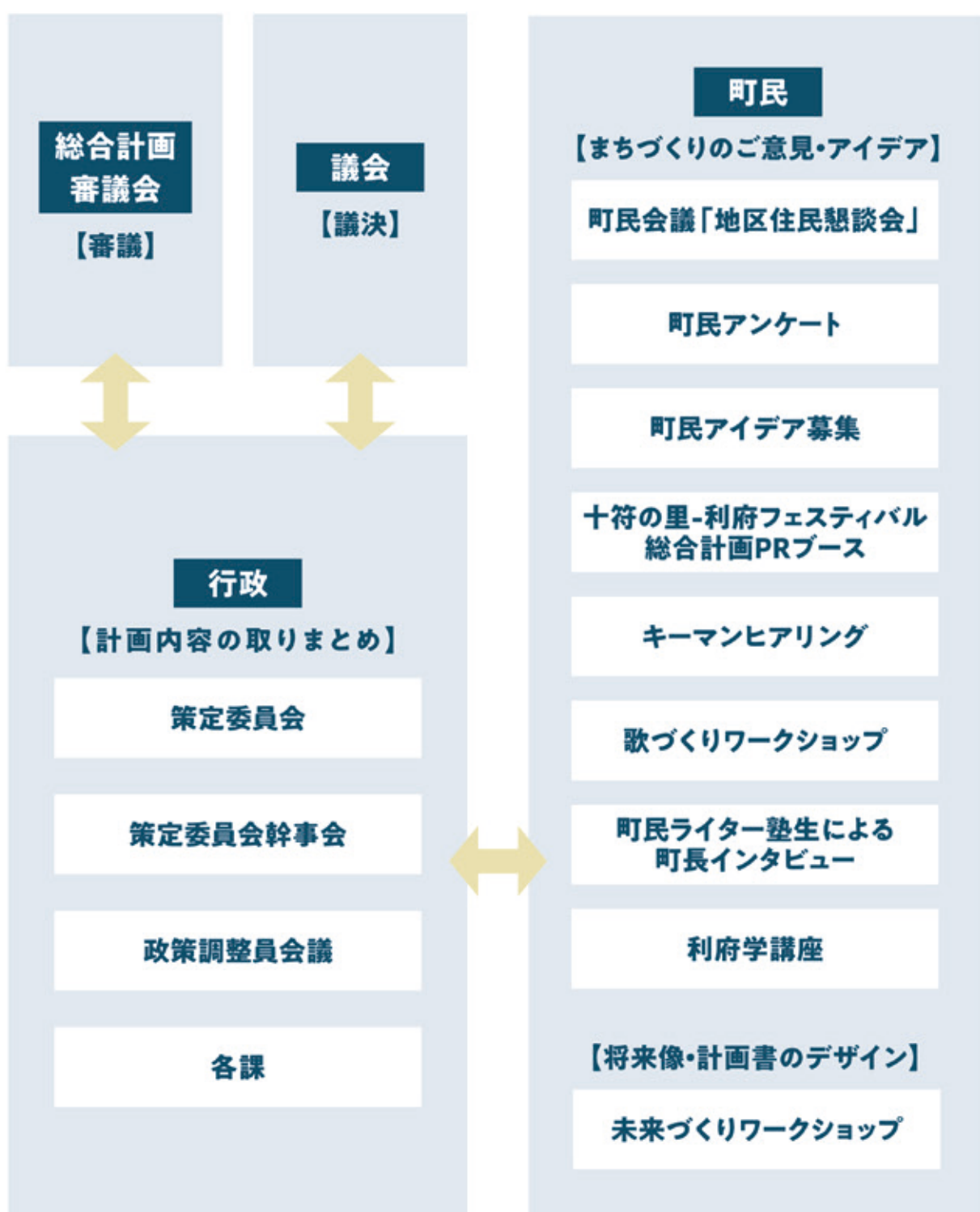
さらに、新型コロナウイルスをはじめとする感染症や大規模災害の発生等による新しい暮らし方・働き方、地方への移住の増加、ICTの進展といった社会全体の大きな変革にも対応しながら、10年後はもとより、その先の将来も見据えたまちづくりにチャレンジするため、「利府町総合計画」を策定しました。

計画の構成・期間



計画の策定体制

この計画は、町民の皆さまからの「まちづくりへのご意見・アイデア」を参考にしながら、行政内部の委員会等で「計画内容」を取りまとめ、総合計画審議会で「審議」、議会で「議決」をいただくなど、協働の策定体制により策定しました。



人口減少・ 少子高齢化



- ◆ 全自治体の約半数が「消滅可能性都市」になることが危惧される。
- ◆ 医療・年金など社会保障に係る国の予算は増加の一途をたどり、2040年には1.5人の現役世代が1人の高齢者を支える「肩車式」になるといわれる。

SDGsの 推進



- ◆ 「地球上の誰一人として取り残さない」という理念のもと、持続可能な世界を実現するための国際社会における17の開発目標「SDGs」の推進が求められている。

自治体間競争



- ◆ 少子高齢化や国際化に伴い、移住施策やシティセールスなど地方創生に向けた独自性のある取組が求められる。

利府町を 社会

～人口減少・少子高齢化時代への

大規模災害



- ◆ 東日本大震災をはじめとして、全国各地で大規模な地震や台風など未曾有の災害が発生しており、ウイルス等の感染症も含め、緊急時への備え、リスクに対する万全の対策が求められる。

教育・子育て



- ◆ 保育所の待機児童の解消が求められ、また、年少人口の減少による学校の統廃合なども問題視されている。
- ◆ GIGAスクール構想など、ICTに対応した教育環境が進んでいる。

公共インフラ



- ◆ 高度成長期に建設された道路や橋、公共施設が老朽化し、一斉に更新時期を迎えるため、財政負担の増大により維持管理や更新が課題視される。

インバウンド需要



- ◆ 自然・歴史・文化・食・イベントなどの地域資源を、新しい生活様式の中で生かしながら、より安全で、より魅力のある観光戦略が求められる。

取り巻く 情勢

突入と社会環境の劇的な変化～

情報技術の 高度化



- ◆ 人工知能、ロボット、IoTの進展により、人間が行う仕事、役割は大きく変化すると想定され、生産性を劇的に押し上げるイノベーションの実現が期待される。

産業



- ◆ 生産年齢人口の減少による担い手不足や、国内市場の縮小と国際競争の激化が懸念される。

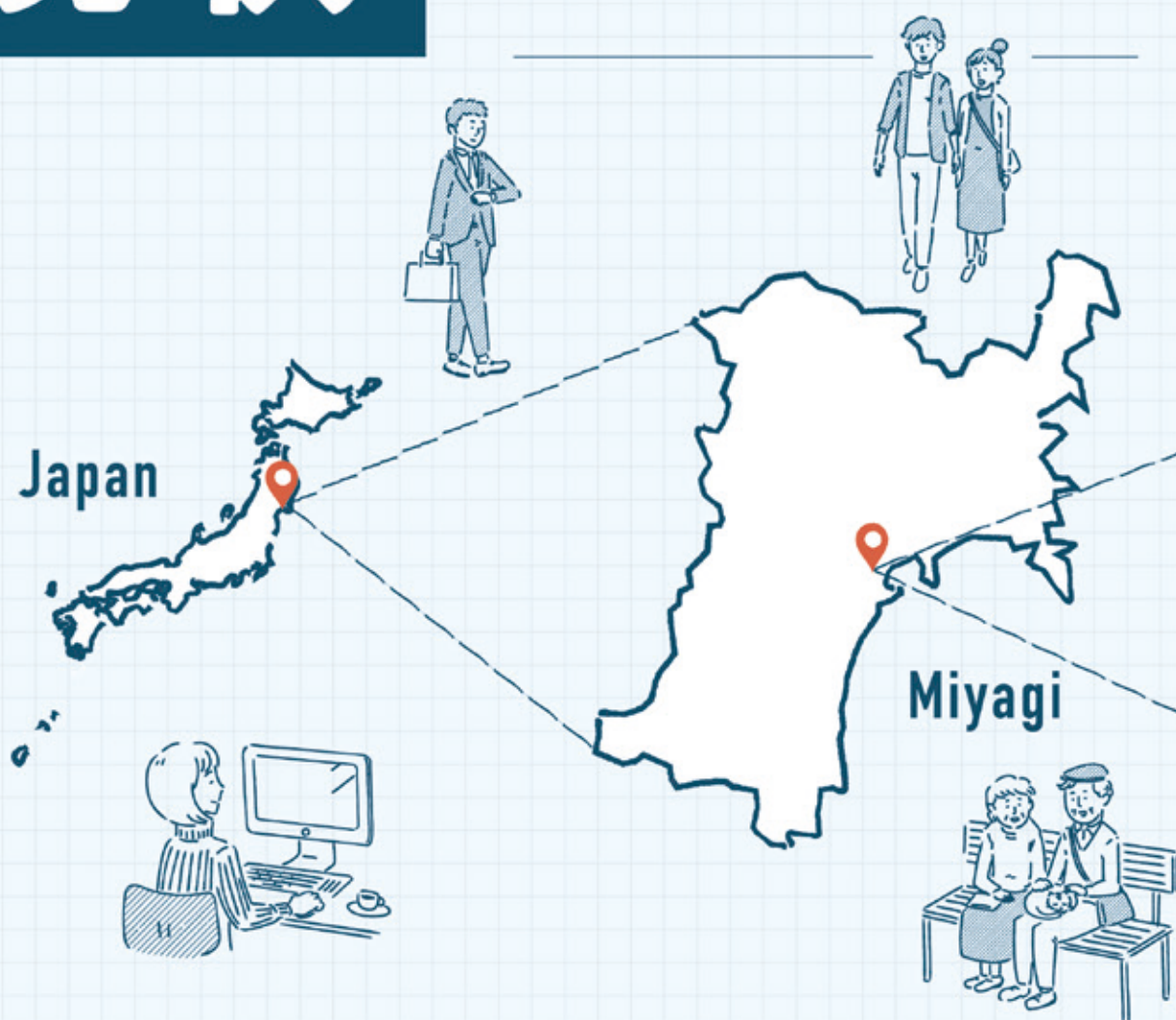
働き方



- ◆ 人生100年時代となり、一億総活躍社会に向けた働き方改革が求められるほか、新しい生活様式により、地方でのテレワークといった新たな働き方も注目されている。

利府町の 現状

利府町の「今」と、
まちの「ポテンシャル」を紹介します。
ロケーションやアクセス、人的資源に伝統文化。
それぞれの魅力が、
まちの可能性につながっています。



地勢と特徴

利府町は、宮城県のほぼ中央に位置し、7つの市町と隣接するとともに、町内に3つのJR駅と4つのインターチェンジを有し、交通アクセスに優れています。また、大規模な商業施設、公園、医療施設、公共施設が充実し、都市と自然が調和した暮らしやすいまちです。仙台市のベッドタウンとして、子育て世帯にも人気があり、さらに、2002年FIFAワールドカップサッカーの会場となった宮城スタジアム(宮城県総合運動公園)や日本三景松島の一角をなす表松島の海、特産の利府梨といった豊富な地域資源を有するなど、今後も大きく発展する可能性を持っている町です。

暮らしに便利

- 仙台市のベッドタウン
- 大規模な商業施設、自然公園、医療機関
- 充実した子育て支援、教育環境

豊かな
ライフスタイル

- 文化施設、スポーツ施設が充実
- 新たな市民活動、おもてなしの風土の芽生え

優れた立地性

- 3つのJR駅
- 4つのインターチェンジ
- 7つの市町と隣接



Rifu

大規模イベントの
開催実績

- 2001年みやぎ国体
- 2002年FIFAワールドカップ

魅力あふれる
観光資源

- 宮城県総合運動公園
- 新幹線総合車両センター
- 表松島の海、観光梨園

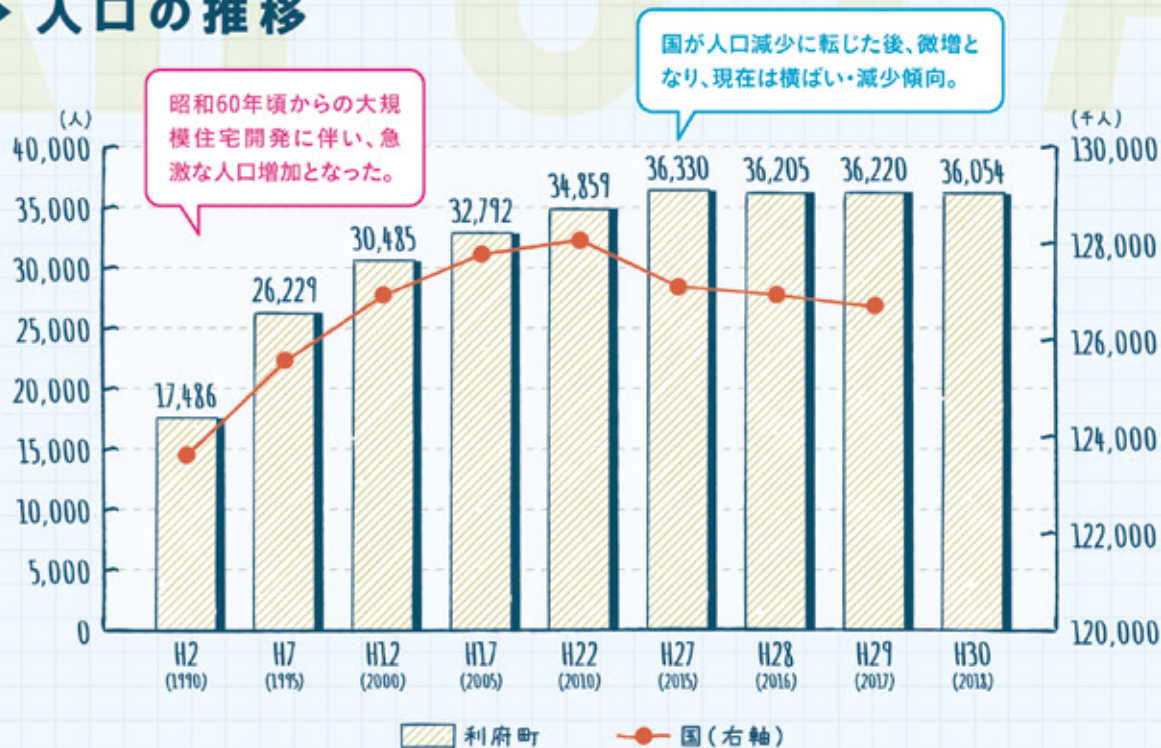
豊富な特産品

- 利府梨
- カキ、ワカメなどの海産物

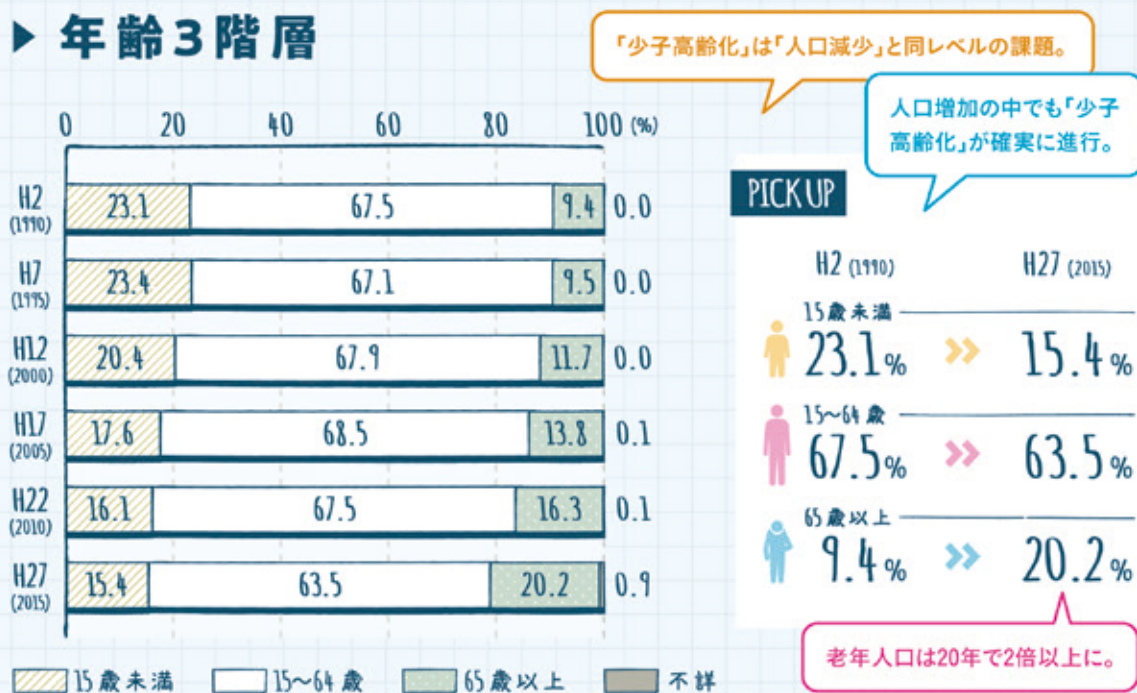


人口

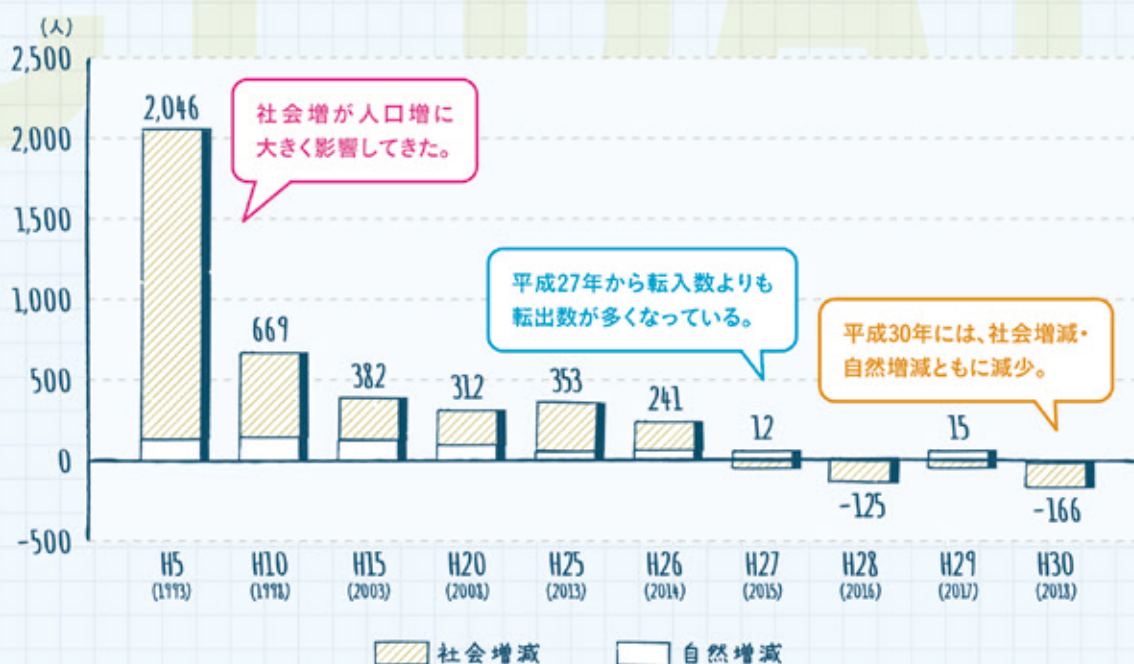
▶ 人口の推移



▶ 年齢3階層



▶ 自然増減・社会増減



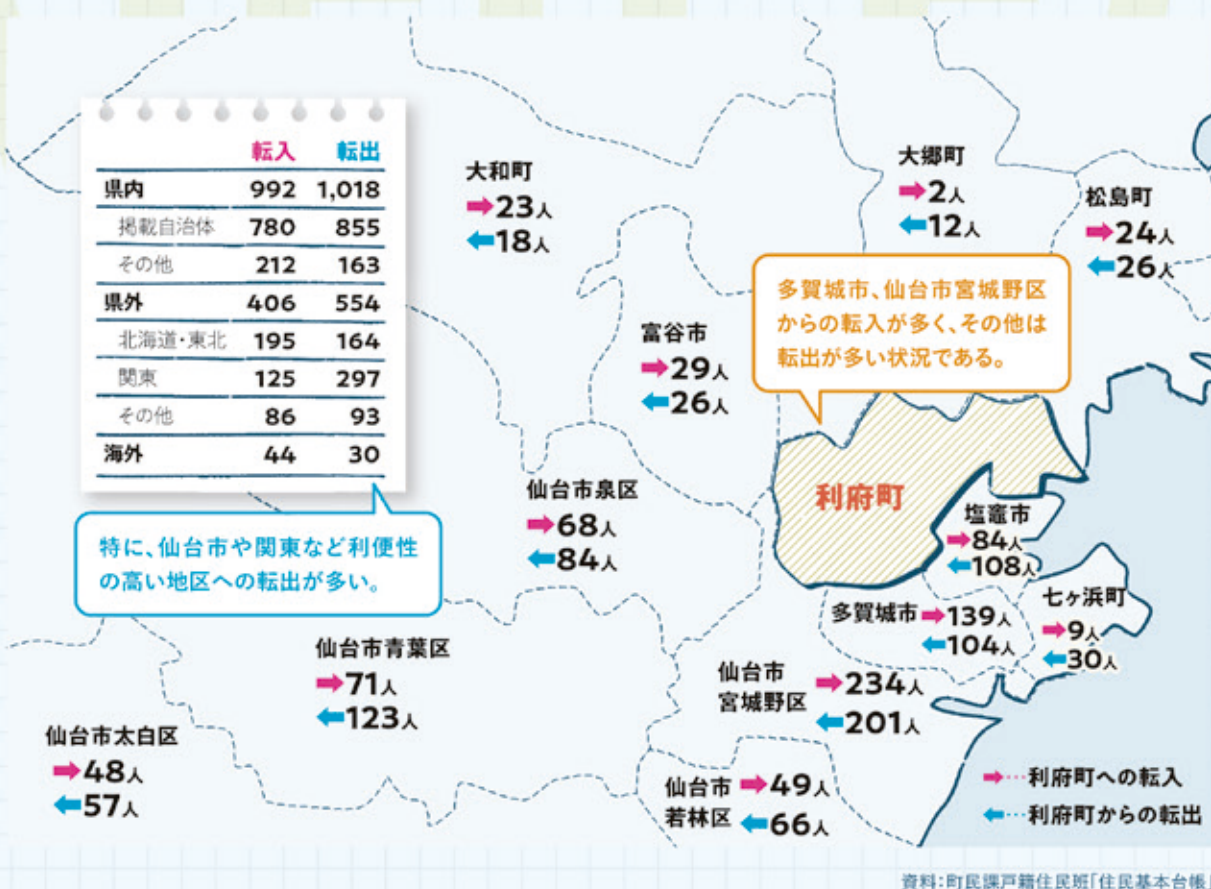
資料：町民課戸籍住民班「住民基本台帳」

▶ 転入・転出の年齢構成 (平成30年度)

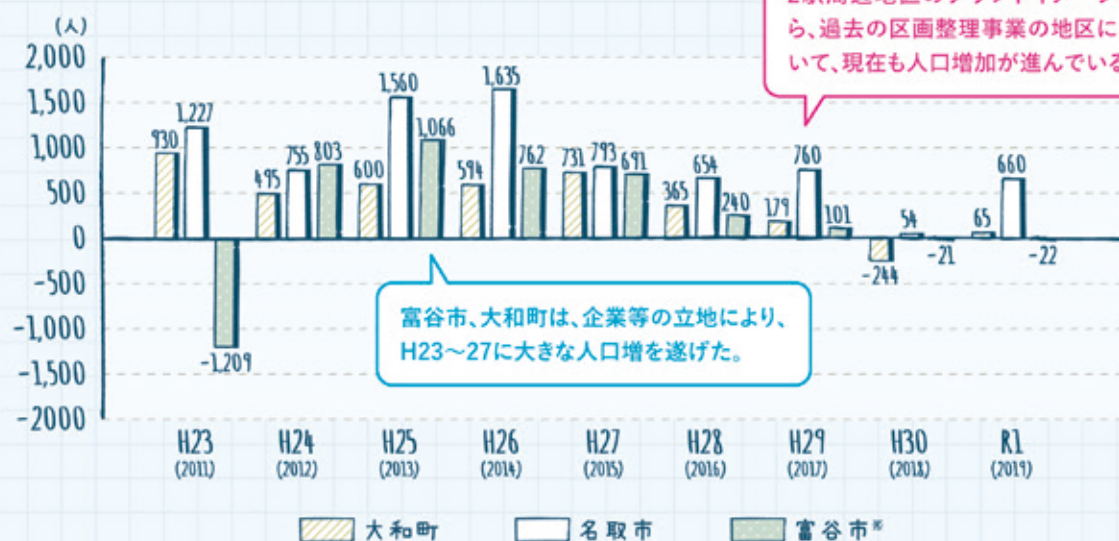


資料：住民基本台帳人口移動報告

▶ 転入・転出の状況（平成30年度）



▶ 【参考】近隣市町の人口推移（近年、人口が増加傾向の自治体）



▶ 合計特殊出生率

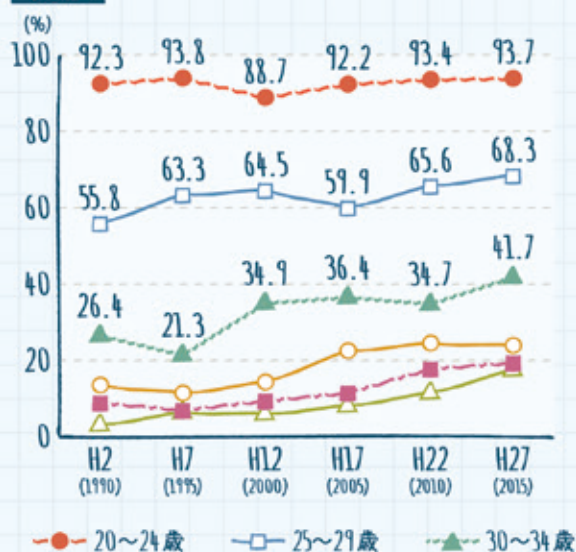


現行人口ビジョンで「希望出生率1.8」を設定する中、平成29年に1.4まで増加したが、その他は1.3前半を推移。

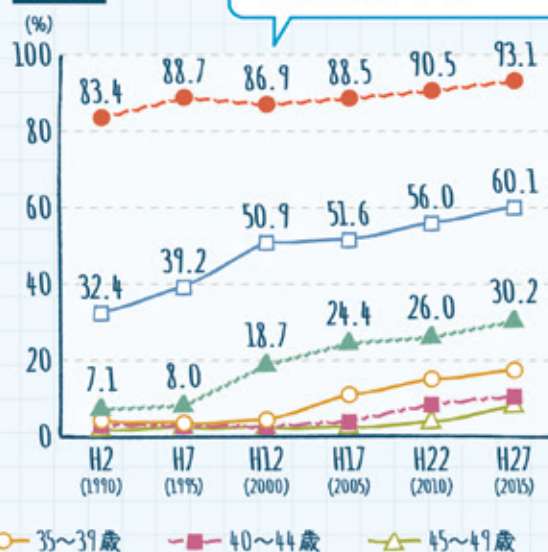
資料：利府町子ども支援課

▶ 未婚率

男性



女性



合計特殊出生率と関連する未婚率については、すべての年代で増加傾向となっている。

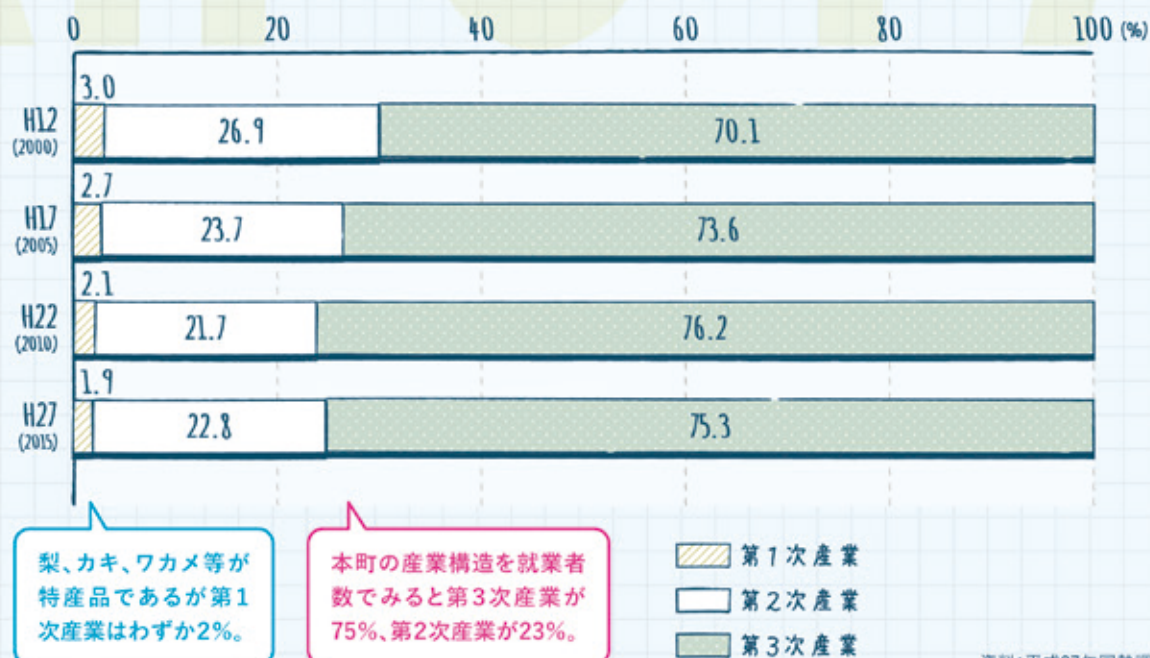
資料：国勢調査

人口の現状に関するまとめ

- 利便性の高い自治体への転出が多く、若者の転出抑制、転入促進が必要。
- 他自治体事例から、人口減少社会の中でも、人口増の可能性はある。
⇒ 企業誘致に伴う転入確保、駅や大型ショッピングモール等周辺の開発等。
- 結婚し、子を産み育てたいという希望をかなえるための支援が必要。

産業と圏域

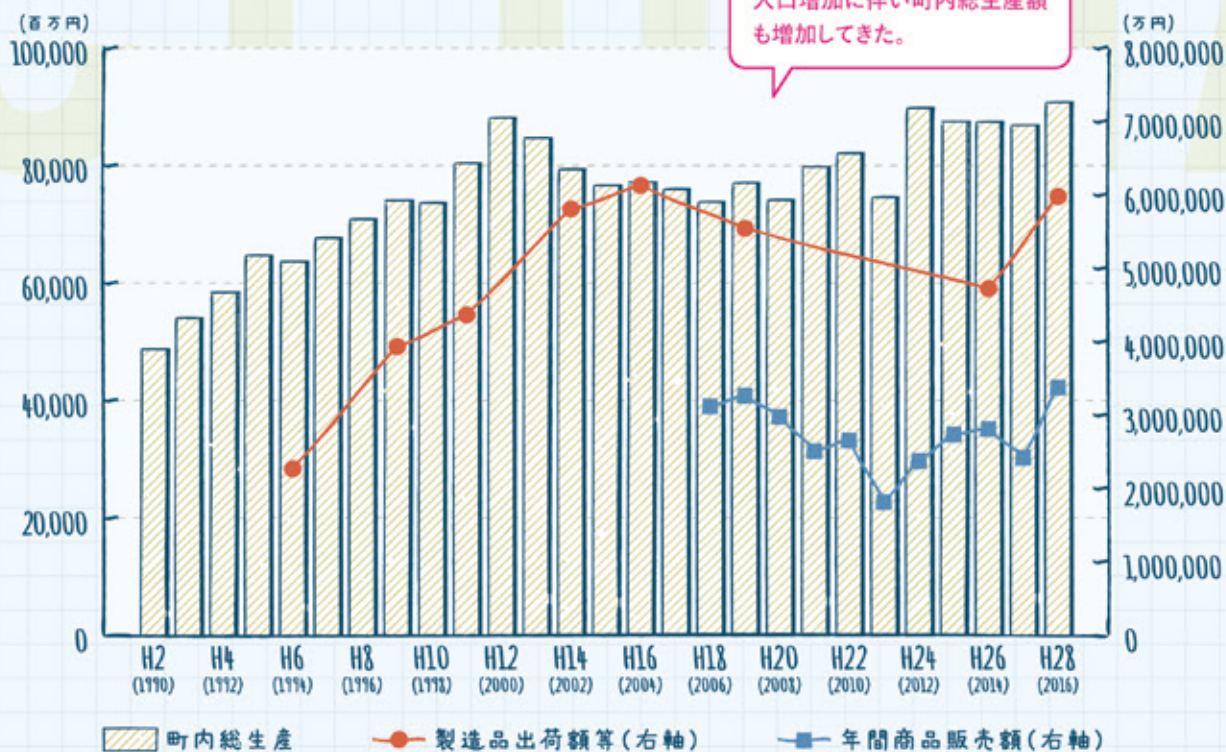
▶ 産業構造



▶ 事業所・従業員の推移



▶ 町内総生産額等



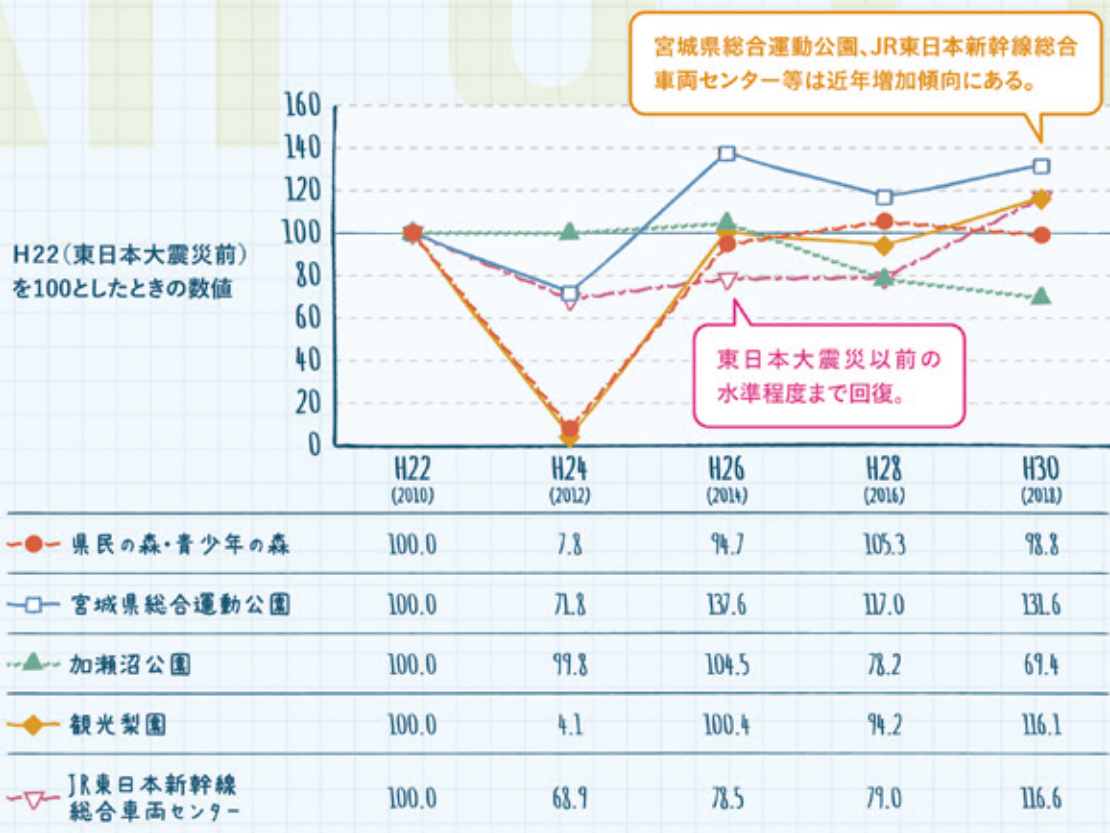
資料:宮城県市町村経済計算、経済センサス・活動調査

▶ 観光入込客数・宿泊者数



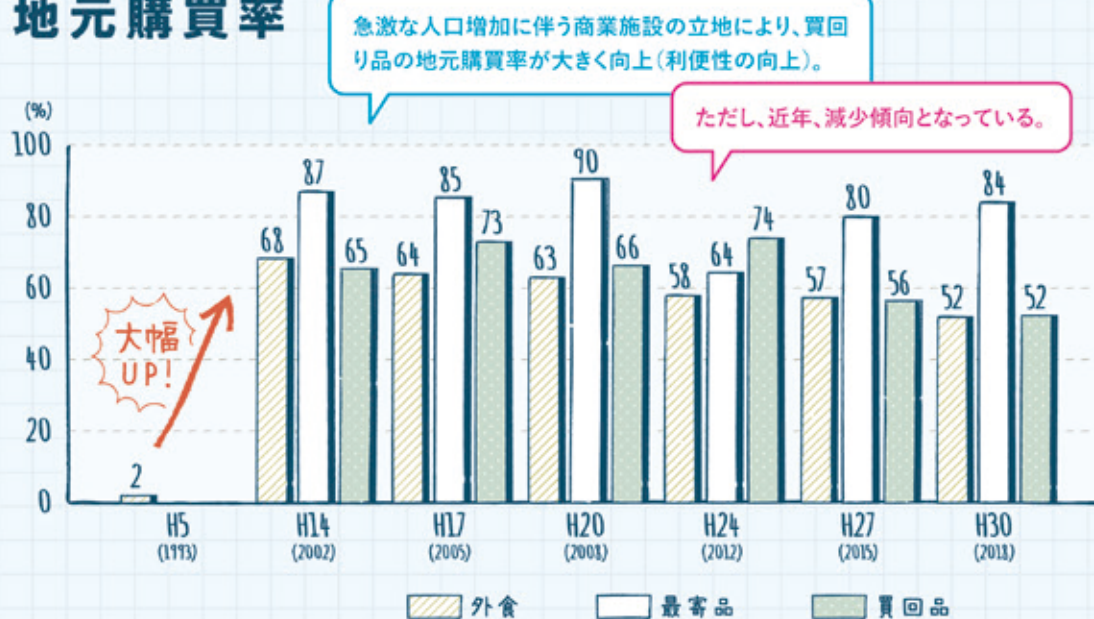
資料:宮城県観光統計概要

▶ 地点別の観光入込客数とH22(震災前)からの変化率



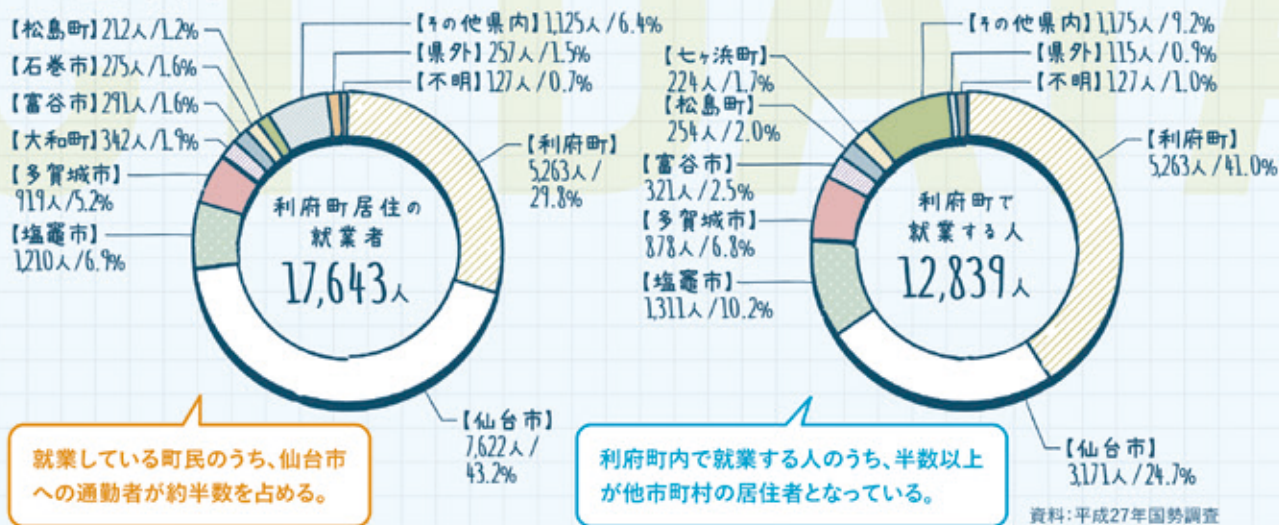
資料:宮城県観光統計概要

▶ 地元購買率

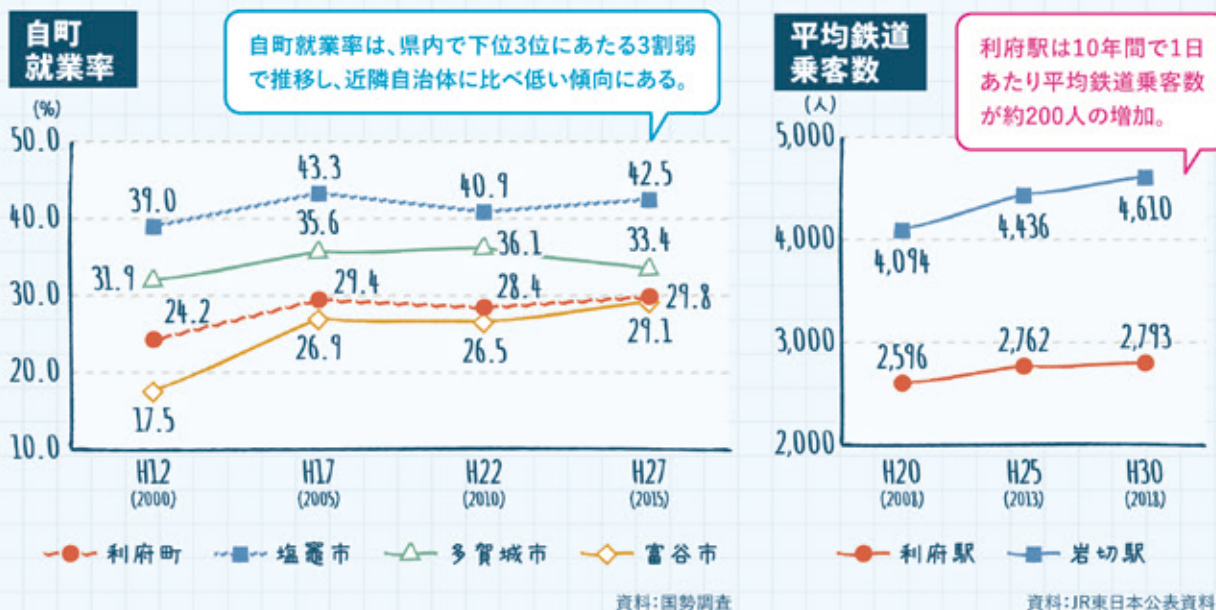


資料:宮城県の商圏 消費購買動向調査

▶ 通勤人口



▶ 自町就業率の推移、1日あたり平均鉄道乗客数

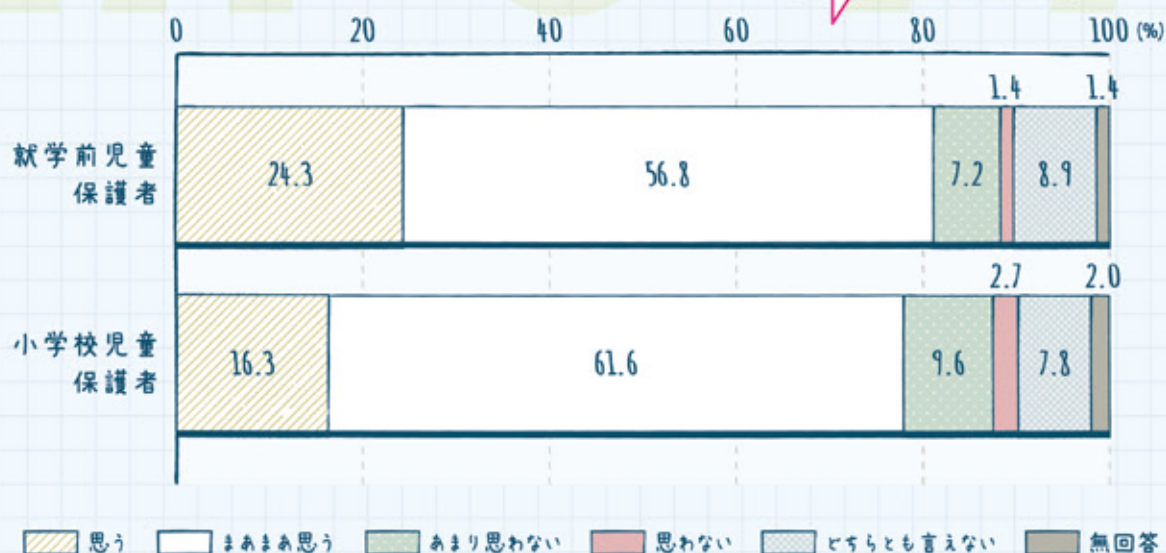


産業と圏域の現状に関するまとめ

- 人口増加と事業所数の増加は、利便性の向上等の相乗効果を創出する。
- 本町の特産である利府梨を含む第1次産業は衰退傾向にある。
- 観光資源を生かした宿泊施設・企業等の誘致と起業・創業が求められる。
- 自町就業率の向上に向け、雇用の場の創出も求められる。(職住近接)

子育て・教育

▶ 子育てしやすさ



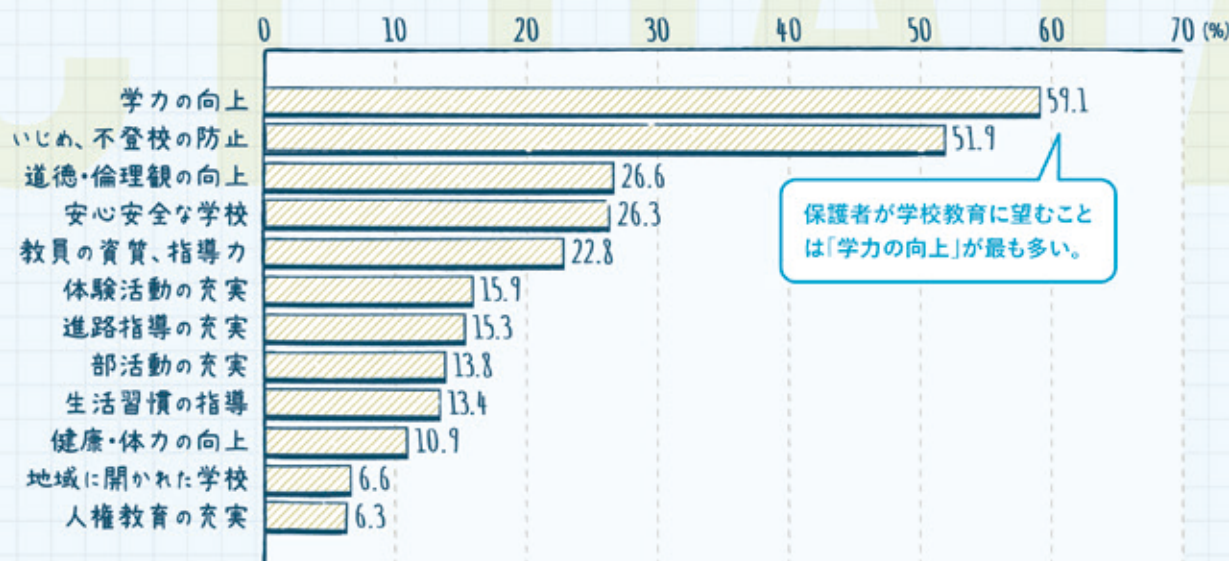
資料：子ども・子育て支援事業計画に係るアンケート調査（平成30年度）

▶ 保育施設数及び入所定員数の推移



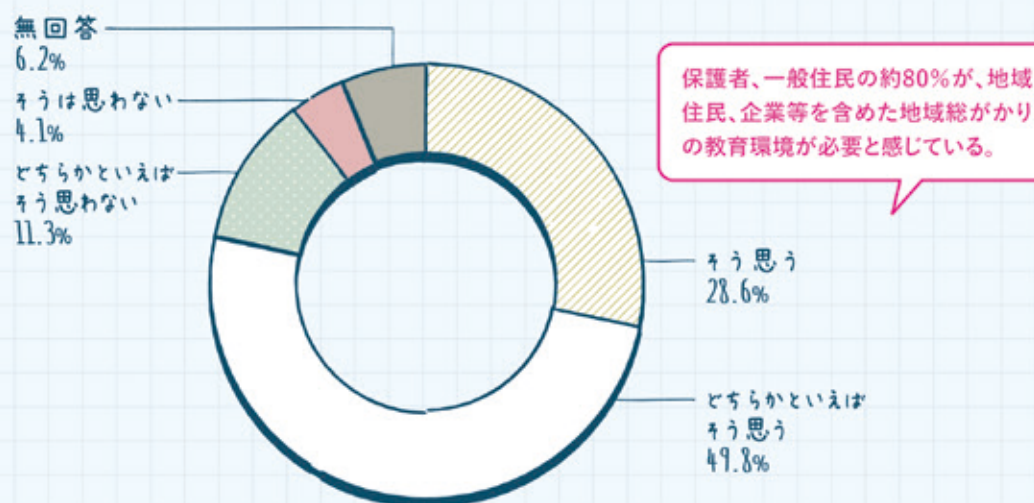
資料：利府町子ども支援課

▶ 学校教育に望むこと



複数回答
資料：利府町教育委員会(平成29年度)

▶ 地域総がかりの教育環境の必要性



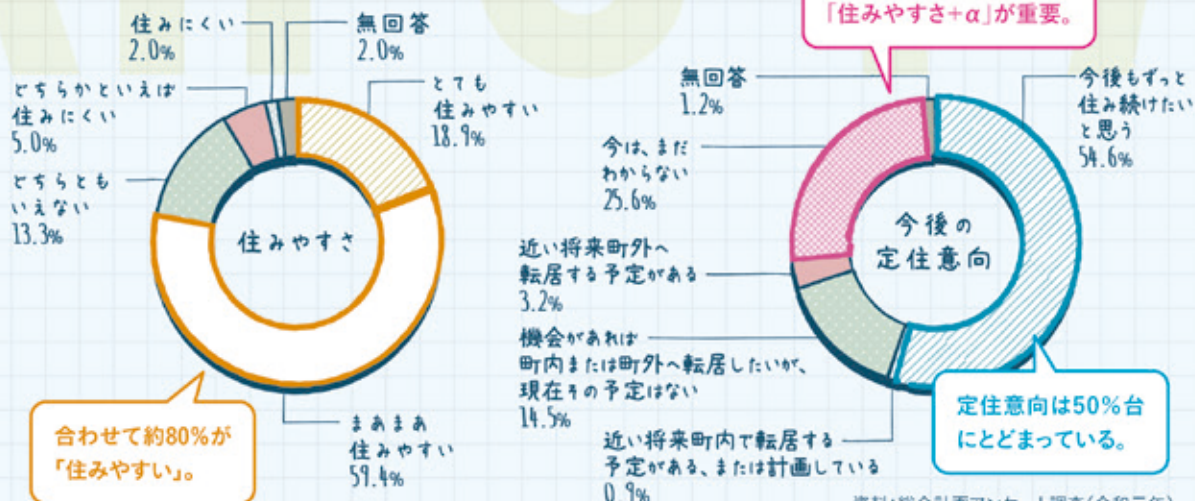
資料：利府町教育委員会(平成29年度)

子育て・教育の現状に関するまとめ

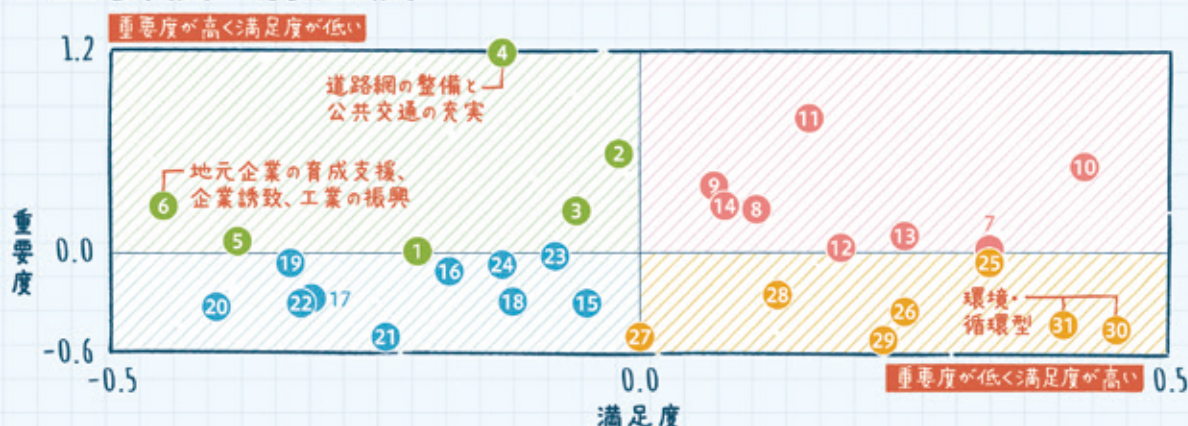
- 子育て支援の満足度は高い。
- 保育施設の施設数、入所定員数とも増加している。
- 保護者が学校教育に望むことは「学力の向上」が最も多い。
- 地域全体での教育環境づくりが求められている。

町民ニーズ

▶ 住みやすさ・今後の定住意向



▶ 重要度・満足度



1 学びの機会の充実／生涯学習環境の整備	7 町民に開かれたまちづくり／広報・広聴活動の充実
2 保健・福祉・医療に関する社会保障システムの充実／広報・啓発活動	8 近隣市町村との連携／効率的な行政の推進
3 交通環境の整備／防犯活動の推進・消費生活の確保	9 健全な幼児教育／学校教育の推進・教育環境づくり
4 安全で快適な道路網の整備／利便性のある公共交通の充実	10 健康づくりの推進／広域的な救急医療体制の充実
5 農林水産業の振興	11 福祉の環境づくり／子育て支援の環境づくり
6 地元企業の育成・支援／企業誘致・工業の振興	12 防災意識の高揚／消防・救急体制の強化／防災対策の充実
	13 公園・緑地の整備／上下水道施設の整備及びライフラインの構築
	14 役場庁舎周辺地区の商業施設の拡充／地域商業振興のための支援・育成
15 町民主体のまちづくりへの参画・協働	25 町民サービスの向上／組織体制の構築
16 多様な交流活動の場の整備／文化を創造するまちづくり	26 スポーツ・レクリエーション活動の推進／スポーツ施設の整備・充実
17 効率的かつ効果的な行政運営／計画的な財政状況	27 文化活動の人材や団体の育成・支援／新しい利府文化を生み出す環境整備
18 地域での教育活動／青少年健全育成や地域リーダーの育成	28 土地利用の推進
19 男女共同参画社会の実現／子育て・介護などの環境整備	29 自然環境の保全／都市景観の形成
20 国際交流活動の支援／多文化共生の推進	30 循環型社会形成への意識高揚／環境負荷低減に対する取組への支援
21 歴史・文化遺産の保護・活用／伝統芸能の伝承や後継者の育成	31 環境に対する意識の啓発と環境保全の強化／ごみ減量化・リサイクルなどの推進
22 中心市街地の形成	
23 居住環境の向上や利便性の確保／公共施設の整備や運営	
24 観光振興	

資料：総合計画アンケート調査(令和元年)

▶ 町民の想い、意見

(地区懇談会、未来づくりワークショップ、アンケート等からの抜粋)



無作為に2,000人を抽出して実施した
町民アンケート調査での自由意見を区分すると…

全体の34%が公共交通・渋滞緩和に対する意見

1位	公共交通・渋滞緩和	148件
2位	施設整備・施設誘致	42件
3位	人口問題、まちづくり全般	33件

4位	行政運営	27件
5位	子ども・子育て	19件
6位	広報・情報発信	17件
7位	地域コミュニティ	16件

【町民ニーズから抽出されたキーワード】



利府町の課題

社会情勢、現状データ、町民ニーズ及び行政における施策評価等の分析から、7つの分野に分け、主な分野別の課題を整理しています。

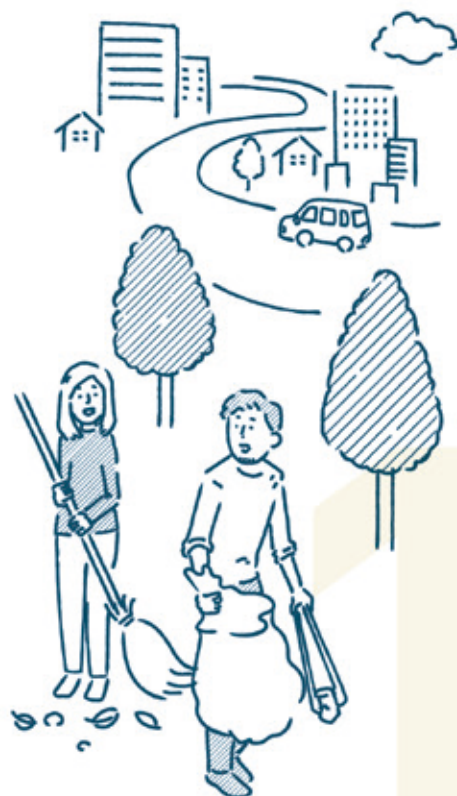
また、人口減少、少子高齢化の進行に伴い、2060年までの人口の将来展望を示す「人口ビジョン」を策定するなど、今後のまちづくりにおいては、長期的な将来を見据えていくことが重要となることから、将来を見据えた長期的な課題についても整理しています。



主な分野別

生活環境

- ◆ 仙台市への近接性やアクセスの良さを生かした都市計画や開発により、更なる利便性の高い都市空間づくりが求められている。
- ◆ 町民ニーズとして、公共交通の充実が大きな課題となっており、また、町内の主幹道路（利府街道や大型ショッピングセンター周辺道路）などでは慢性的な交通渋滞の緩和が課題となっている。
- ◆ SDGsの達成に向け、環境美化や循環型社会の形成を図りながら、利府町が持つ豊かな自然環境を次の世代へと引き継いでいく必要がある。



の 課 題



福祉・医療

- ◆ 人生100年時代と言われる中、町民アンケートでは、福祉環境や社会保障システムに関する重要度が平均より高いことから、生涯にわたり、健康で暮らせるための健康づくり支援と安心な医療・救急体制の確保が求められている。
- ◆ つながりの希薄化や人口・年齢構成に地域差がみられることから、地域での支え合いの仕組みづくりと地域福祉の担い手確保が求められている。
- ◆ 今後、高齢者人口と高齢化率が増加することが見込まれ、介護認定率も増加傾向にあることから、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが求められている。

子育て・教育

- ◆ 子育て世帯へのアンケート調査では、約8割が「子育てしやすい」と感じている一方、「子育てのまち」というイメージは強いとは言えない状況であるため、積極的なPRが必要である。
- ◆ 町民アンケートにおける満足度・重要度からも、子育て支援の更なる充実と、結婚・妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援が必要である。
- ◆ 保護者等へのアンケート調査では、保護者が学校教育に望むこととして「学力の向上」が最も高くなっており、また、子ども一人ひとりが心豊かにたくましく生きる力を伸ばせるよう、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てていく教育環境づくりも求められている。
- ◆ 今後、更なるICTの進展などが想定されることから、時代に即した教育環境づくりが求められている。



産業・観光

- ◆ 10歳代後半～20歳代の転出超過がみられるとともに、自町就業率が約3割に留まっているため、魅力ある地域産業づくりが求められている。
- ◆ 町民アンケートでは、農林水産業や地元企業の育成・支援と企業誘致に関する満足度が低く、雇用の確保と産業の活性化が求められている。
- ◆ 宮城県総合運動公園、JR東日本新幹線総合車両センターへの観光客が増加傾向にあるものの宿泊施設が少なく、宿泊者数は横ばいであるため、宿泊施設の誘致や地域経済の好循環を生む観光振興に取り組んでいくことが重要となる。
- ◆ 第1次産業人口は減少傾向にあり、後継者不足が課題となっているため、6次産業化も含めた農業振興と担い手の確保が重要となる。



安心・安全

- ◆ 町民アンケートでは、安心・安全に関する重要度が高いことから、あらゆるリスクに強くしなやかに対応しながら、町民の生命、身体及び財産を守る災害対策を推進していく必要がある。
- ◆ 災害時には地域における助け合いが重要となることから、町民の防災意識を高めることが必要である。また、コミュニティでの見守り活動などを通じて、犯罪のない地域づくりを進めていくことも求められる。
- ◆ 町民の安心・安全な暮らしを支えるため、安定した水の供給を確保するよう水道施設の適正な維持管理や水道管の耐震化、整備が必要である。

芸術・文化・ 生きがい

- ◆ 町民の芸術・文化、生涯学習の活動促進に向け、文化交流センターを核とした事業推進と積極的なPRを図ることが求められる。
- ◆ 宮城県総合運動公園や楽天イーグルス2軍本拠地などを生かし「スポーツのまち」のイメージアップに向けた積極的な事業推進が求められる。
- ◆ 平成27年に「女性活躍推進法」が成立し、社会において女性が自らの希望に応じて活躍できる環境づくりが必要である。
- ◆ 国際化の進展に伴い、国を越えた人の移動や交流が活発になっており、多文化共生に向けた地域づくりが求められている。



協働・ 行財政経営

- ◆ 地域力の向上に向けて、町民活動に関する幅広い人材の育成・発掘、地域行政のあり方などを検討する必要がある。
- ◆ 町への関心や愛着を高めるとともに、定住人口、交流人口、関係人口の拡大に向けた戦略的なプロモーションに取り組むことが必要である。
- ◆ 一層の財源確保に努めるとともに、取り巻く行政課題に柔軟に対応し、町民サービスの向上を図るための適切な事務事業を推進しながら、持続可能な行政運営を実現することが必要である。

将来を見据えた長期的な課題

「人口減少」と「少子高齢化」が急激に進行し、2040年には、全自治体の約半数が「消滅可能性都市」になると言われています。さらに、全国の高齢者人口がピークに達し、1人の高齢者を現役世代1.5人で支えることとなる「2040年問題」が危惧されるなど、現状の行政サービスが維持できなくなる極めて深刻な事態も想定されます。

また、ICTの劇的な進展や働き方改革の推進など、社会情勢に大きな変化がみられる中、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式に伴い、人々のライフスタイルが一層多様化していくことが想定されます。

こうしたことから、これまでの町民サービスを維持しながら、より満足度の高いまちづくりを持続していくためには、長期的な将来を見据えた「大きな目標」を町民、事業者、行政で共有しながら、その目標の達成に向けた新たなまちづくりに挑戦していくことが極めて重要であると考えられます。

そうした中において、利府町は、他の市町村にはない優れた立地性や魅力的な地域資源に恵まれており、宮城県の牽引役を担いながら、将来にわたって人口減少と少子高齢化を乗り越えていけるポテンシャルを有するまちであると言えます。

人口減少と少子高齢化の波を乗り越えるためには、「子育て世帯の転入促進」「若者の転出抑制」「出生率の向上」が大きな鍵となることから、自然と都市が調和した「住みやすさ」に加え、「住んでみたい」「住み続けたい」と感じてもらうための新たな付加価値(+α)の創出が必要となります。

そして、町民一人ひとりが幸せを実感し続けられる暮らしや環境を次世代へと継承していくために、まち全体の魅力の底上げを図りながら、持続的な発展に向けた戦略的なまちづくりにチャレンジしていくことが重要となります。

社会全体の人口減少・少子高齢化による様々な影響

新型コロナウイルス感染症の発生等により社会情勢がさらに大きく変化

これまでの町民サービスが維持できなくなる懸念も

満足度の高い暮らしを次世代へとつないでいくための必要条件

子育て世帯の転入促進

若者の転出抑制

出生率の向上

持続的な発展に向けて、現在の住みやすさに加え、新たな付加価値(+α)が必要

まち全体の魅力を底上げしながら 戦略的なまちづくりへのチャレンジが重要

快適な都市空間

魅力ある地域産業

新しい人の流れ

結婚・出産・子育ての希望がかなう環境